

南丹市地域公共交通会議
議 事 録

南丹市地域公共交通会議事務局
(南丹市企画政策部地域振興課)

南丹市地域公共交通会議（平成29年4月12日開催）議事録

1. 招集年月日 平成29年3月16日（木）
2. 開催年月日 平成29年4月12日（水）午後2時00分～午後4時00分
3. 開催場所 南丹市役所1号庁舎3階会議室
4. 委員の総数及び出席者数並びにその氏名
 - (1) 委員の総数 19名
 - (2) 出席者数 15名
 - (3) 出席した委員の氏名 別紙出欠状況のとおり
 - (4) 講師 1名
 - (5) 傍聴者 3名
5. 議事の経過の要領及び議事別の議事事項

	(委嘱状交付)
会長挨拶	<p>本日は、南丹市地域公共交通会議を開催しましたところ、公私ともご多用の中ご出席いただきありがとうございます。公共交通の見直しについては、市長も、どうしても見直さなければならない、という考えをもっていていただいております。この委員会においても事務局の方で検討するよう指示をしておりますが、公共交通といっても広く福祉の分野から教育の分野まで含め、本会議が所管する部分は多岐にわたっており、全てを効率よく、市民の皆さまの利便性を高めるためには、かなり専門的・技術的な事が必要であると考えており、なかなか実を結ばないのが実態であります。本日は、京都大学大学院工学研究所の松中准教授に講師としてご出席いただき、お話を聞かせていただいたなかで、南丹市の公共交通のあり方等についても、ご指導いただきながら、新たに構築をしていくことになっております。講演の後には、委員の皆さまとの意見交換を行う予定としておりますので、最後までよろしくお願ひしますとともに、開催にあたってのあいさつとさせていただきます。</p>
会長	<p>それでは、協議に入ります。「平成29年度バス交通活性化事業について」事務局の説明を求めます。</p>
事務局	<p>(資料に基づき事務局から説明)</p>
会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、これについてご意見、ご質問はござい</p>

	<p>ませんか。特に無いようでしたら、後ほど先生の方からお話を聞いた後、意見交換を行う形でお受けしたいと思います。次に、「今後の地域公共交通のあり方ーバス交通を中心にー」について、京都大学大学院工学研究科の松中先生からご講演を頂いた後、意見交換会を実施します。</p>
講師	(～講演～)
会長	<p>ただいまご講演を頂きましたが、内容につきましてご意見、ご質問はございませんか。</p>
委員	<p>地域公共交通においては右肩下がりの時代は終わった、ということで伺いました。京都市内においては外国人観光客のインバウンドの影響は大きく、南丹市でも美山町などでその影響がありますが、右肩下がりの時代は終焉したという考えの中に、インバウンドの影響は含まれているかどうかという点で、先生の考えをお聞かせいただきたいです。</p>
講師	<p>京都市ではインバウンドの影響はかなり大きいと伺っています。逆に、増えすぎて乗降時の混乱など、住民の利便性の低下も否めない、というお話も聞こえてくるような状況です。インバウンド要素が公共交通にとってプラスに働いていることは間違いないです。ただ、インバウンドがあまり見込めない地域でも、利便性の高い公共交通サービスを提供することによって、利用者を増やすことは不可能ではないです。例えば、富山県の朝日町では、路線・ダイヤ等を京都大学も一緒に考え、作成したあさひまちバスという路線バスを実際に運行しており、ここはインバウンドの影響は少ない地域であると言えますが、きちんと公共交通を整備し提供していくことによって、前年同月と比較してほぼすべての月で利用者が増加している、という状況となっています。利便性の高い公共交通を整備し提供することによって、インバウンドが無くとも利用者を増やすことは可能である、と考えております。</p>
委員	<p>路線の見直しについては交通路線だけでなく路線に伴う地域の実態と、現在の利用と将来の利用見込みをつかんだうえで実施していただきたいと考えています。また、高齢化が進む中で、高齢により一般的な公共交通に乗れない人も増えてくるかと思っておりますので、そういった方々のことも考慮し、進めていただければと思います。その中で、本日の講演は非常に興味を持って聞かせていただき、これからも本会議の委員活動に参画していこうと感じました。ありがとうございました。</p>
講師	<p>ありがとうございました。確かに、公共交通に乗れない方、というのは一定数おられるかと存じます。福祉有償や、その他のサービスも必要になってきますので、公共交通と分けて、考えていく必要があります。ただ、公共交通は様々な効果をもっており、一つは、移動に自動車を使っている人よりも健康寿命が長くなる傾向があるといわれています。実</p>

	<p>際に昨年富山市で調査をしましたところ、富山市で発行されている「お出かけ定期券」、高齢者向けに公共交通の運賃を割引く制度ですが、それを所持している方と所持していない方を比較すると、お出かけ定期券を所持している方は一日当たりの歩数が多くなっているという結果になりました。8,000歩以上歩くと健康に良いなど色々言われておりますが、公共交通を利用していただく事は、健康寿命を延ばすことにつながります。そういった多様な面で公共交通は効果を持っておりますので、公共交通のこういった要素が地域に影響を与えるか、地域でどのようにとらえていくのか、ということも反映させながら、改善していくことが必要であると考えております。</p>
委員	<p>デマンドバス運用のきっかけは、公共交通維持のため資源を有効に活用するという考えのもと生まれたと伺いました。南丹市においては、モータリゼーション、車について1家に1台以上、といった形で自動車を所持されており、基本的に免許を持っている方は自家用車で移動することが多いですけれども、その中で高齢者の方への対応を考えていくなかで、京丹後市で実施している Uber(自家用車タクシーのシステム)は南丹市の持つ自家用車という資源をうまく使えるシステムであるかと考えられます。高齢者の抱える問題を、南丹市がもつ資源、自家用車を活用する Uber で対応できないかと考えております。公共交通の観点からは離れてしまいますが、この件について先生の考えを教えてください。</p>
講師	<p>ありがとうございます。確かに Uber のシステム、考え方はひとつの解決方法になりうる可能性はあります。ただ、日本の法制度の中ではまだ認められていないものであり、そういった法整備や、安全面の確保、事故が発生した際の責任問題、そういった部分がこれから議論されていくことになるかと考えられます。可能性としては、あると思います。そういった意味では、これも可能性の議論になりますが、もう一步先の自動運転の技術も、公共交通を大きく変えていく可能性は充分あると思っております。ただ、自動運転の場合は道路インフラ側が自動運転に対する設備を整備しなければ、完全自動化は厳しいのではと考えております。ある程度のインフラ投資が、受け皿として必要になります。いくつかの今後の可能性を見据えつつも、それを待っているわけにもいきませんので、今ある問題を解決していくことが必要であると考えております。</p>
委員	<p>分かり易い有意義な講演を、ありがとうございました。人材育成という点で、これから事業・調査研究を進められる中で、邪魔にならない程度に我々も調査等の手順について、見学等させていただく機会がございますか？</p>
講師	<p>京都大学としては、機会を設けていただければかまいません。</p>
会長	<p>私としては、できるだけそういった機会を設けていけたらと考えております。</p>
講師	<p>来月に、利用者の調査を現地で行います。学生が調査に入りますので、見ていた</p>

	<p>だいて結構ですし、我々としてもウェルカムです。そう言った形で皆さんが積極的に、前向きに関わっていただく事が一番大事だと思っておりますし、みなさんが公共交通に対して思っておられることをお寄せいただきましたら、我々なりに検討させていただきますので、よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>公共交通会議の委員で、情報共有をしていくという事でしょうか？</p>
委員	<p>その通りです。委員会自体としての質も、上げていく必要があるかなと考えております。</p>
講師	<p>そういった意味でも、ぜひ皆さまも我々の動向を見守っていただき、どういった活動をしているかを見ていただき、お考えがあればどんどご指摘をいただき、良い方向に向かいたいと考えております。</p>
委員	<p>交通政策研究ユニットの現在の取組として、他にどういった活動をされているか、簡単にお聞かせいただけたらと思います。</p>
講師	<p>交通政策研究ユニットは社会人の人材育成ということで設立しております。毎年、今年もですが、交通政策に関する講義を開催しております、一日に2時間の講義を3コマ、これを計8日行っております。座学だけでなく、演習の形で自分たちの問題意識をプレゼンテーションしてもらおう事を含めて、講義を開催しております。ユニットのもう一つの活動として、政策支援、現在南丹市と進めておりますバス活性化事業といったものがありますが、こちらの方はもともと京都府との連携事業で始まっており、府下のいくつかの自治体と一緒に進めております。富山県朝日町の取組は、直接交通政策研究ユニットではなく、別の取組で京都大学が入って進められたものであります。もし人材育成の講義にご興味のある方は、明後日(4月14日)までが募集期間になりますので、HPをご覧の上応募いただければと思います。南丹市にも、修了生の方がおられます。今年もそういった講義をさせていただきますので、お時間の許す方はご参加いただけたらと考えております。</p>
委員	<p>昨年の会議でもお伝えしましたが、私どもの地域は大型バスが走っていますが、満員で走っているところを見たことが無く、2人か3人、多くて10人前後を乗せて走っておりますが、足が不自由でバス停まで行くことが大変、という住民のことも考慮し、できるだけ小型のバスで、家の近くまで運行する、近くで便利なバスといった体系を構築できないかと考えております。大型と小型のバスでは運転手の人件費もかなり変わってくるかと。経費の削減という部分でも良いかと考えますが、こういった質問は公共交通の考え方からは、おかしいものでしょうか？</p>
講師	<p>決しておかしい質問ではございません。バスの車両の大きさは、それぞれ適したサイズがございます。しかし、そこだけ小型にすると、かえって全体のバスの種類が増え、コストが増える可能性もあり、全体を見ながら考えていく必要があります。運転手のコストに</p>

	<p>については、大型免許を持つ人と持たない人が混在すると、シフトのローテーションの関係でやり取りができなくなる可能性もあり、個々に見させていただいて、具体的にどういった地区でどういった要望があるかのニーズを調査していく必要があると思っております。我々外からの者ではなかなか分からない部分もありますので、そういった現地の皆様の考えを聴取する場を設け、全体として一番良い方向を考える必要があります。必ずしも個々の要望全てを取り入れられるかは分かりませんが、こういった形で進められたらと考えております。</p>
会長	<p>バスの大きさについて、南丹市はスクール兼用で走っている部分があり、どうしても大型が必要な事情があります。できるだけこれを機会に皆さまが、利便性が高まる方法を考えていただき、実行に移していくことが公共交通会議の使命でもありますので、よろしくお願い致します。</p>
委員	<p>調査は、いつごろから始められますか？また、現在先生から見られて日吉・美山地域のどういった部分を見直していくのか、まだ調査を始められていないところではありますが、簡単な所見をお伺いできたらと思います。</p>
講師	<p>昨日市役所の方にお世話になり、日吉・美山地域のバスの路線とダイヤを現地で見させていただきました。現時点で明確にお伝えできるものはございませんが、これから、どのバスがどこで、どのような形で運用されているか、あるいはどこでどういった要望があるのかを踏まえながら、解決できる場所を探していく形になります。まずは来月実態把握を行い、特に美山園部線と五ヶ荘線を少し重点的に見ていく予定です。市役所の方の考えもうかがっておりますので、それが実現可能かどうかも含めて考えさせてもらえればと思います。</p>
会長	<p>現在、路線から料金すべてを条例で縛っている所でもありますので、もう少しこの公共交通会議で決められるものは、条例でなくもっと短時間の間に見直しができるシステムに変える必要があるのではとお聞きしておりますので、できるだけ早い改革ができるように進めていければと考えております。また、機会を設けて、見直しの進捗状況と併せてご意見、ご質問をいただきたいと考えております。それでは、他に特に無いようでしたら、本会議を終了させていただきます。</p>
副会長 挨拶	<p>4月当初の大変お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。また、本日は京都大学大学院の松中先生におかれましては、地域の実態調査、実態を見ながら今後どのように進めていけばよいのかという事をご講義いただき、ありがとうございました。住民にとって利用しやすい公共交通のあり方ということで、調査いただきながら改善していく方向も出させていただいておりますので、今後皆さまにつきましてもよろしくお願い申し上げます。閉会のあいさつとさせていただきます。ご苦労様でした。</p>